

巻頭言

大学の教育理念と同窓会の理念
教育後援会長の任期を終えて

高橋 伸治
平野 泰宏

5 4

2021年度 学位記授与式

式辞

祝辞

2021年度卒業生からのメッセージ

言い訳はタサイ
努力すること
後悔しないために
なりたいたい自分になるために
仲間に感謝
主体性から生まれた縁

原科 幸彦
内田 茂男
高橋 伸治
ミールドニアルリエウ
木内 沙弥
秋保 百音
伊藤 玖蓮
佐藤 圭
宇貫 和奏

6

特集 1

2022年度 入学式

式辞

祝辞

新年度にあたって～学部長メッセージ

商経学部の今後について
政策情報学部の新しい学び
サードス創造学部の「3つの学び」の真の狙いとは
人をうごかす。社会をつくる。
留学再開にあたって

原科 幸彦
内田 茂男
平野 泰宏
久保 誠
朽木 量
坂井 恵
鎌田 光宣
山田 武

20

特集 2

学長プロジェクトとSDGs
—持続可能な社会づくりへの大学の貢献—

新しく来る時代に必要な教育について

「仮説」と「検証」を繰り返し、突破口を見出す

千葉商科大学 指定強化クラブ、はじまる。
体育会ラグビーフットボール部の活動
体育会バスケットボール部の活動

島田貴清・小島孟人
門之園 太一

原科 幸彦
酒井 志延
小川 亮

35

ゼミ紹介

学生活動について

学園より

新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する本学の取り組み
～2022年度春学期スタートにあたって～

江原 文智

45

	「なるほどなれっじコンテスト」を開催		56
	■ ニュース・イベント		
	■ 学生小論文コンテストで敢闘賞を受賞／ほか		63
	■ 国際センターニュース		
	■ 留学生の外部奨学金獲得を支援		68
	■ キャリア支援センターニュース		
	■ 就活・春夏秋冬		
	■ 地域連携推進センターニュース		
	■ 第12回地域連携フォーラム開催／ほか		72
	■ The University DINING レポート		
	■ Initiatives for SDGs／Renewal of Pamphlets／ほか		75
	■ ライフフリーニュース		
	■ 特集「展示「就活サポート」を開催しました！／ほか		78
	■ 体育会所属各部等の活動状況		80
	■ 教育後援会活動報告		82
	■ 保護者寄稿		83
	■ 千葉商科大学に入学して		88
	■ 西野好枝		
	■ 飯野亨		90
	■ 広報・IT委員会		
	■ 広報・IT委員会		93
	■ 本部からの報告		
	■ 支部からの報告		
	■ 同期会からの報告		94
	■ 同窓生のお宿・お店紹介「船宿・釣り船『幸丸』」		99
	■ 向後嗣一		
	■ CUC経営者会議ニュース		
	■ 千葉商科大学の更なる発展のために		100
	■ 安藤昭		
	■ 随筆		
	■ 奥尻特有のリズム『ちくしりじかん』		101
	■ 新村卓実		
	■ 建学の精神からの……		103
	■ 浜島直子		
	■ CUCサポーターズ募金／2021年度寄付実績報告／2021年度寄付者芳名録		104
	■ SONEから読者の皆さまへ		106
	■ CUCサポーターズ募金から始まる断熱改修プロジェクト		108
	■ 水出翔		
	■ 著書紹介		
	■ 「オムニチャネル 小売業のロジスティクス統合」		110
	■ 著者・天下剛		
	■ 大下剛		
	▼第51期同窓会維持会費等納入者および第52期同窓会維持会費等納入者一覧		111
	▼同窓会支部事務局一覧		118
	▼編集後記		120

大学の教育理念と 同窓会の理念

多年にわたる新型コロナウイルス感染症パンデミックの中で、学位記授与式および入学式が、それぞれ挙行されました。今年も最大限の安全確保のために、ご家族の皆さまには会場ではなく、リモートによる配信で行われました。卒業生、新入生の皆さま、ご家族の皆さまには、あらためて、「誠におめでとうございます」。

千葉商科大学の教育理念は、「教育の要は、人の大なるを知り、人をしてその大なる所以の者を知らしむるにあり。また、人に接するの第一義なり。」と本学の創始者である遠藤隆吉先生は掲げています。私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織および会員の発展・充実ならびに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること。」であります。創立50年の歴史を重ねた私たち同窓会は、この理念のもとに、これからも大学、教育後援会の皆さまと力を合わせて、社会に旅立つ若者たちの支援と新たに本学で学ばれる学生たちの発展に邁進して参ります。

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会長
(昭52商)



千葉商科大学は教育・研究のバックボーンとして、高い倫理観の涵養と実学を掲げています。その中で、新しいことを始める時には、新しい人と新しい知識が必要になります。第二期中期経営計画のもとで「社会が必要とする大学」としての基盤を強化し、「社会科学の総合大学」としての体制を強化することを願っています。

世界の既成概念がどんどん崩れています。新しい言葉の数だけ、私たちの生活感は変わりました。新型コロナウイルス感染症パンデミックの中で進展したりリモートワークを中心としたハイブリッドな働き方はますます広がっていくことでしょう。過去の成功例が通用せず、優れた手法はすぐに真似されてしまう「正解のない時代」です。世界はどんどん変化していきます。その新たな流れを的確につかみ、人を大切にしている理念のもとに、これからの社会に対応できる私たち同窓会になれるように、大学および教育後援会の皆さまとコミュニケーションしながら、頑張って参りますので、よろしくお願いいたします。

巣立って40年、 営業人生を通して……

飯野 亨

丸文株式会社 代表取締役社長
昭和57年 商経学部経営学科卒業

昭和53年、当時の時代背景は王貞治が756本の本塁打世界記録を樹立、成田国際空港の開港、サンシャイン60の開館など今でも記憶に残る出来事が多々ありました。本校総務部の幹旋で老夫婦が営む下宿屋から私の商大生活がスタートしました。三畳一間に半間押入れ、賄い付きのこの下宿屋には4人の商大生が住んでいました。秋田県横手市出身の私の一番の試練はコミュニケーションから始まりました。標準語を話す事に全く馴染みのな

かった私は1カ月もの間、周囲と殆ど口を利くことができませんでした。5月のGWにはすっかりホームシックに掛かってしまい、ラジオから流れる千昌夫の「北国の春」を聞いては涙したものです。そうこうしている内に同じような境遇の似た友人が何人かでき、授業やアルバイトに明け暮れながらも友人たちと共に成長し合いながら過ごした4年間でした。市川駅北口のケンタッキーフライドチキンでの時給¥380のバイト代は日々の銭湯



と昼食、学食のカレーライスや校門前にある食堂の商大弁当に消えて行きました。学業は余り熱心ではありませんでした。私が師事した水野教授のマーケティング論は当時、学生たちの一番人気で卒論の取り組みを通していろいろご教授を賜りました。製本していただいた卒業論文は今でも大切に本棚に収めてあります。

卒業を機に多くの友人が故郷に帰るなか、私は都内に本社がある水処理プラントメーカーに就職しました。入社して新人研修を終えたばかりの頃、山梨県の山間の集落で洪水による浸水災害が発生しました。この復旧工事の一部を会社が請け負うことになり、約40戸の各戸に飲料水確保のための揚水ポンプと滅菌装置を据え付ける作業に駆り出されました。朝から晩まで泥まみれになって働く現場作業は2週間に及びました。とある家の作業を終えて最終の水質検査を完了し引き上げる時に3歳ぐらいの男児とお母さんが家から出て来ました。もうヤカンで水を沸かさなくても水道の蛇口から飲めるんだよ、良かったね。って優しく子供に話し掛けるお母さんと美味しそうにコップの水をゴクゴク飲む男の子を見て思わ

ず目頭が熱くなりました。そのお母さんの後ろの白い壁には背丈位の所まで泥水が上がった線がハッキリと付いていたのです。命に必要な安全な水の提供を通して社会に貢献しているのだ、とこの会社の仕事を心の底から誇りに思いました。以後、私は「何の為に、誰の為に」と言う事を強く意識して仕事をする様になりました。この考えを自身の軸に置く事で大概の不都合はさしたる苦勞とも思わず乗り切る事ができました。

しかし、時が経つにつれ、会社が抱える問題も次第に分かってきました。メーカーであるのに開発力に乏しく且つチャレンジ精神が希薄な社風、市場の要望に十分な対応ができないことは自明の理でありました。自社の限界を感じる様になり、3年間お世話になった会社ではありましたが退社する決心をしました。当時は半導体や電子部品が普及しエレクトロニクス製品がどんどん開発された時代です。ファクシミリやカラーコピー、TVゲーム、ワープロ、液晶パネル、VHSレコーダーなど日本の電機メーカーが世界を席卷して行きます。そこで選んだ会社はエレクトロニクス専門商社でした。成長が期待される市場に国内外の先端技術と製品を提供し、日本の電

機メーカーのモノ作りに貢献する事、お客さまに世界市場でNo.1に成っていただく。この考えを自分の軸に据えました。

私が転職した丸文は、防衛、航空宇宙、情報通信、自動車、産業、医用を対峙市場とし半導体や試験・解析装置、製造装置などを販売する会社です。創業175年、呉服問屋から身を起こした会社は時代の変化を先取りしながらエレクトロニクス製品を扱う専門商社へと変貌を遂げて来ました。先人たちが残してくれた財産（お客さま、仕入先からの信用、先見と先取の精神を大切にする社風）を継承し、後世に新たな財産を残す事を使命とし取り組んでおります。最後に大変、僥越ではありますが40年間の営業人生を振り返り、多くの失敗と失望を繰り返してきたなかで、私が特に意識してきた「3つの行い」をご紹介します。

●「大義」 何のために働くのか、生きるのか、何を守るべきかと言う自身の大義を持つ一方どうしても叶わぬことはすっぱりと諦めて開き直る、心の強さを合わせ持つこと

●「人」 大上段に構え多くの信頼に応えねばと思うより、信頼してくれる人をまずはガツカリさせたくないと思う素直な気持ちで真心込めて対応すること

●「運」 健康に恵まれ且つ周囲のご支援があったればこそ、とこれまでの好運に素直に感謝する心を持ち、その運から見放されないよう謙虚に生きること

言うは易く行うは難し、でかくいう私も日々修行の日です。

結びに、この度母校からこのような寄稿の機会を頂戴しまして、改めて厚く御礼を申し上げます。我が母校の益々のご発展と同窓生の皆さま、母校の教職員の皆さま、教育後援会の保護者の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。